

2021.11.22 富山県成長戦略ビジョンセッション（黒部市）での発言要旨

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表（①～⑤グループ）】

①十五個アイデアが出たんですけど、もっぱら水が多かったですね。名水と言っているわりに、全然名水感がないんじゃないかから始まって、だから、名水をどうアクションに落としていっていかってことを、具体的なアクションに落としていってことに盛り上がりました。票が集まったアイデアとして、まず水道水が飲める国というのは、世界200か国ぐらいある中でも、15か国ぐらいなんです。その中でも貴重な。水道料金は井戸水を出しているからタダなんです。そんな異様なことなので、外国で水に困っている国の人を連れてきて「水ツアー」をやりたいというのがまず一つ。

もう一つは、黒部市民全員観光大使プロジェクトということで。黒部という、大きな塊が観光PRをしたりするのもいいんだけど、結局は、個々の黒部愛こそが人を連れてくるって事実もあります。僕もですね、毎月県外から僕に会いに来てくださる方もいらっちゃって、先月は5人、今月は2人いるんですね。人が人を呼べるっていうのも実際に行われているので、そういうことをやったらいいのでは。そのために、みんなが観光大使ですって呼んであげるのがいいのかなと思いました。

水が豊かである一方で、あるところは湧水20か所以上でこの辺でも湧水していますけども、水回りの管理などもこれからは高齢化などの人口が減っていく中で、問題になるので、井戸水、井戸をオーナー制度にして、いろんな黒部市に住んでいる人、住んでいない人でも、地元の水を守ってもらおうみたいなアクションをやったらいいんじゃないですか。ということでした。

知事：黒部といえばやっぱり水ですよ、最初のチームにこれやられると後のチームつらいかもしれません。それとやっぱり黒部市民全員大使これも大切だと思います。私も47都道府県を3回くらい回りました。それから海外も30か国ぐらい行きましたが、やっぱりどこが一番良かったですかと聞かれるのですが、やっぱりその町の彼、彼女なんです。彼女といえば語弊があるかもしれませんが、まずそんなことかと思います。ぜひ黒部市民全員黒部大使になっていただきたいと思います。

大野市長：まず水のこだわりのお話あったこと、市長として大変うれしく思います。非常に関心を持ったことは水のオーナー制度。今確かにこの周辺は井戸水がぼんぼん出ているのですが、すでに家がなくなってしまって井戸水だけが寂しくこんこん湧き出ていると。こういうところが実際にあるんですね。それを多分指摘されたんだと思います。それから市民全員が観光大使アンバサダー。市長としては望みですね。ありがとうございます。

②うちのグループでは、まず、体験から交流につながる機会をとということで、黒部市はいろいろ体験することがいっぱいありますので、そういった部分から人と人の交流を通じて黒部市って良いよねって事を知っていただき、多く方に来ていただくことを計画できないかなというアイデアが出ていました。そこで心配になってくるのが、うちの班でも意見があったのですが、教育の問題がでてくるところで、オンライン教育に強い黒部ですね。移住したいけどちょっと教育はどうなのと、選択があるのか心配だよってところはあると思いますので、黒部市に来れば、一流の塾の先生であってもオンライン教育ができますよとか、進学もばっちりですよというようなところに進化していくってことが大事で、まず、体験するってところとオンライン教育ってところがうちの班では多く票が出ました。以上です。

知事：教育というのもとても大きな力になると思います。消滅可能性都市と言われた都市が教育でまちおこしをしたという例も実はあるんですね。富山県の教育は実は、公教育がとても充実している県だと言われていますが、これにあぐらをかいてはだめだと思います。今また、公教育を磨きなそうと頑張っております。とてもいいアイデアありがとうございます。

市長：輪島の話の中で黒部の発展とありましたが、黒部の発展そのものは富山県の発展に繋がるという視点で聞いておりました。オンライン教育につきましては、コロナ禍によって非常に議論されるようになりましてけど、フェイス to フェイスの教育学習。これも基本的に重要だと思います。うまくオンラインを使っていくということが大事だと思います。ご指摘ありがとうございました。

③このチームは、魅力というチームで集まりました。我々が考える魅力は、人の魅力だと思います。先人にも偉大な方がたくさんおられますし、この場にも素晴らしい方がたくさんいます。幸せ人口1000万人を目指すなら、人を人が呼ぶ。人づくりから始めてはいかがでしょうか。もう一つ、天然の富山湾のいけすということで、富山の山は、3000mの山から1000mの深さの4000mの高低差があるということそこにたくさんの美味しい魚があります。これは大分浸透はしていますが、富山県からおさかな推進ブランド協議会もありまして、ずっと前からPRしてまして。今調査をした結果、富山県の魚が日本一美味しいというふうに評価されているらしいです。それをもっと継続的に、この生地なんか特に一番深いところにありますので、ぜひ富山湾の天然のいけすって言葉をどんどん発信していけたらいいかなと。実は私の商売になるもんですから、個々の話をするのはどうかなと思ったのですが、こぶ締め体験をするっていう先ほどナガイさんから意見がありました。それもなかなか面白いアイデアだと思いますし、富山は昆布は採れませんけれども、日本一昆布を食べる県だということもちょっと。これは大分浸透してきましたね。お姉さんの高橋さんが一生懸命にやっていたいただきました。二つですかね。人の魅力、それから富山湾の天然のいけすこれをPRしていけばいいかなと思います。

知事：やっぱり富山県といえば水と昆布。昆布も富山県の売りだという風に思います。これも幸せ人口1000万人大きな力になられていると思いました。ありがとうございます。ぜひ、黒部市は40万人を目指してください。

大野市長：黒部はこぶ締め体験は非常にポテンシャルあると思います。観光資源にしていけばいいかなと考えながら聞いていました。それから天然のいけす。黒部は実はほかに行くと未だに海が無い市だと思われています。黒部はすぐダムなんですね。全国市長会でまだそういうふうにおっしゃいますので非常につかりしますが、売り方も悪いんだと思います。4000m宣伝しましょう。

④今回はいろいろ自動運転とかデジタルフォーメーションということで4人のメンバーが集まったわけですが。それこそ今回デジタル化ということで富山県そして黒部市や新川地区のほうでもデジタル化が遅れているなど。メンバーの佐々木さんはIT関係のお仕事をしておられて松竹芸能の仕事もされている。こういった方が地元にいるのに認知度や理解度が少ないために黒部でやらず滑川にいったということを知った中でやはり、この地域にそういった土壌がない。昭和的な考えであったり理解力がない。富山県の中でも呉東地区は県の出先機関がすごく少ないと思いますので、出先機関が無かった分、黒部ではデジタルの最先端市町村として昔の山田電能村以上のものを作って黒部でいろいろ企業としての実験したり、宇奈月町と合併して順調に人口も減っておりますのでデジタル化をすることによって会社の形成がどう変わっていくかそれに対して移住とかも含めてどうやっていけるか。宇奈月温泉という観光区もありますのでそれも含めて実験の地域にできればということが話し合った結果です。

知事にお願いしたいんですけど、黒部をぜひデジタルの最新市町村にしていただければ。そのために大野市長はデジタルを一生懸命理解してください。ありがとうございます。

知事：十数項目ありましたが、ほぼデジタル関係のことですごいチームだなと感じました。最後要望がありましたが、富山県は頭体がでかいので、時間がかかるかもしれません。その点、黒部市、ぜひどんどん先に行ってください。この前、デジタル庁の副大臣にお会いしてきました。本気で取り組んでいます。オフィスも霞が関から離れて全く新しいビルで、キットキットのオフィスを造っていました。かなり本気です。小林副大臣が言うておられたのは、自治体にはどんどん出向を受け入れますよと言うておられました。どうですか。黒部市から一人デジタル庁に人を出したら。

大野市長：まさか、知事からリクエストが来るとは思いませんでした。今のチームの方、はじめなかなか白紙が黒く埋まらなかったんですよ。どうすんのかなと。最後しっかり埋まってまいりました。私も素直に受け止めてまして、やっぱりこれから大事なのはデジタル化を進めていって、効率的な仕事をしていくことだと思います。代表して松下さんが、市長と知事におっしゃいましたけども、素直に今日の段階で受け止めておきたいと思います。ありがとうございます。

⑤地熱発電をしていけたらいいね。そのなかでも水素の製造。こういった新規事業にもできるかなという意見が出ました。8つほど意見がでてきましたがすべてがつながってくるということで3つほどにまとめてお話ししたいと思います。魅力ある発信のためのECサイトの構築を目指していこうではないかと。これについては箱詰め教育をやめましようとかにも繋がってくるかと、各地区に避難場所がありますが防災とか防犯といったところも視野に入れてみていただきたい。こうなってますよといった発信のECサイトを利用しながら発信していけばという意見でした。それと、郷土愛を育む教育。移住される方、移住していただいている方を含めて、やっぱり富山県に住んでよかったな、特に黒部に住んでよかったなと思っただけのような教育も含めてですけれども、発信づくりというところでもあります。幸せ人口1000万を目指そうということでも核家族がどんどん増えていった結果子育てがなかなか増えない。そういったこともあって核家族化をやめようという方向転換をしながら、自宅に居ながら三世代交流ができるといったような魅力ある富山県づくりになるのではないかと意見がでていました。

知事：中山間地域を盛り上げようというそんな市民会もやってきましたが、キーワードはEコマースでしたね。やっぱり中山間地域いろいろなハンデもある。それをデジタルの力、ECでやっていくんだという、これは一つのキーワード、解決策ソリューションになるのだと思います。黒部にも中山間地域があるわけですから、ぜひEコマースを使って売っていくこれが一つの大切な視点だという風に思いました。それから、1000万人。リアルに人口1000万人になればいいのですが、なかなかそれは難しい。でも黒部市は富山県にはほんと豊かな水・川があります。これを全部使えば1000万人は養えるのが富山だそうです。ですから、いずれは1000万人目指しますが、幸福人口、関係人口1000万人を目指す。そんなことで行きたいと思います。ありがとうございます。

大野市長：ちょうどですね、原油が高くなって冬場に向けて大変な心配をされている中で、省エネ、再生可能エネルギーの話が出たっていうのは、素晴らしいなと思いました。このグループで最後だと思いますので、ちょっと最後に郷土愛、ふるさと愛について触れさせていただきたいと思います。黒部市は市政15周年を記念して、産業史かねやまふるさとの黒部版を作成募集しまして、460あまりが全国からきました。ついに4弾目を決めたと。中尾哲雄先生に審査員になっていただきまして、中尾先生は涙を流して、全部見たとおっしゃっていました。ふるさと愛を子供たちにしっかりと植え付ける。植え付けるといういい方は悪い

な。しっかりとふるさと愛を育むように教育をして欲しいなと。子供自身がここにいてよかったなと富山県民で良かったな、黒部市民で良かったなと思いをするようなものを作ってやっていくことが大切だと、最後のグループでしみじみと感じたところであります。ありがとうございます。

【振り返り】

参加者：本日は参加させていただいて、はじめはどんなことを話せばいいのかなと思っていたのですが、僕らのチームは、この地域の持続可能な形で発表させていただきました。そしてまわりの人の話を聞くことによって、いろんな地域の課題ってものを改めていろんな案がいただけたなと。僕自身まちづくり協議会の会長もしているので、民間の立場で行政にとって黒部市にとって子供たちにとって、まちづくりにもデジタルを含めてできるのかなと思いました。今日はやっとあれなんですけど、夫婦で参加しています。これも手を挙げたわけではなかったのですが、こうやって、夫婦間でも共有して、子育て世帯でもありますので、そこも活用させていただいて、市に提言という形ではないのですが、どうやったらうまくいくのかなということをまた、話を聞く機会があればいいなと思います。

参加者：今日は参加してみてよかったなと思います。自分がこういう風に思っているよというのは、いろんな人にお伝えして、どんな反応いただけるかなという思いで参加したんですが、自分の参加したチームもそうですし、あとから発表いただいたご意見もですね、ほんと前向きで個別のテーマに対して前向きなポジティブな意見がたくさん聞けたので、実はもっと黒部のいろんな人の意見を聞いて、自分たちで作る良い町にしていきたいなと改めて思いました。

参加者：本日はこうやって皆さんの思いやお話を直接聞ける機会をいただきまして、本当にありがとうございました。皆さんそれぞれに、立場も考え方も年齢も様々で、そういった話を聞くことで自分一人では考えられなかったことや気づけなかったこと教えていただきまして、とてもたくさん勉強しました。私自身も自ら考えて参加することが大切だと思っていますので、今後様々な場所で参画していきたいなと思っています。本日はありがとうございました。

参加者：本日は皆さんのお話が聞いて楽しかったです。私自身子育て世帯なんですけど、子育て世帯が、黒部市がどうなっていったら子育て世帯が来たいと思える市になるのかなと考えてきたんですけど、今皆さんの話を聞いて、黒部を一旦出て、戻ってきたいと思えるそういう素地を子供に作るってことも大切だと気付いて、これから必要なのは、各年代ごとに、魅力のあるまちっていうのをつくっていくことが、大切だなと。今までは、子育て世帯の目線でしか考えることができなかつたんですけども、ちっちゃい頃、学生、子育て世帯、

おじいちゃん、おばあちゃんになって、まんべんなく各世代の人口を保っていくために、どのように魅力ある街にしていくべきなのか、自分自身考えて行くいい機会になりました。ありがとうございます。

参加者：今ちょうど言われた方と被る部分があるのですが、私が、知事の最初のコメントの中で、心に残ったキーワードの中で、出るも自由、入るも自由。私自身が子育てしているなかで、実は黒部、富山県はすごくいい素材があるのに、じゃ、富山県には何があるんですかと聞かれると、何も無いがよね。という方がほとんどだと思います。当たり前にあるこの田園風景ですとか、立山っていう素晴らしさを、私自身、一度富山県から出て、海外に出て初めてこの良さに気付いた次第です。ですので、小さい頃から郷土愛を育む教育。そして、外に出るチャンスを与えてくれる県づくり、もちろん金銭的な支援等も含めて、外に出たからこそわかる富山県の良さというのを意識していけるような教育の土台をしっかりとつくっていければと思います。なかなか教育を変えるというのは難しい問題ではありますが、人口増加、そして、富山県の魅力発信含めて大変必要になっていくと思っております。また、今後もこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたく思います。本日はありがとうございました。

参加者：今日はありがとうございました。ポジティブに意見を述べるということは大事なんだなと気持ちも前向きになれるし、いい機会になったなと思います。ありがとうございます。日頃子供たちに、ほら、お山見てごらん、僧ヶ岳の画が見えてきたよとか言いながら、四季折々の山の変化などを知らせています。そういう中で、ふるさといいな、郷土愛というものを育てていけたらいいなと思って教育しています。その中で、ほんとに黒部の良さ、子供たちに今後も育てていきたいと思っております。そして先ほど、知事さんが官と民が一緒に見たいなことをおっしゃいました。私たちも民間保育園も公立保育園も一緒に一つの方向を向いて黒部市のために今後も働いていけたらと思いますので、子供たちに郷土愛いっぱい植え付けていきたいと思っております。ありがとうございました。

知事：郷土愛とっても大切だと思いますが、外から見たらよりわかるものもあると思います。アメリカのオレゴン州と友好都市を提携しているんですね。先日ズームで、ケイトブラウンさんという女性の知事さんとお話しました。そしてお願いをしました。毎年20人富山県の学生を受け入れてくれないかと。そしていろんなオレゴンの、オレゴンというところはアメリカの50州の中でもとても人気のある州なんです。そこを富山県の学生に見せてやって欲しい。それから、事業化教育のメッカでもあります。ケイトブラウン知事は、分かったと、前向きに取り組むよと言ってくれました。富山県の教育のためにやっていきたいと思っております。それから、先ほど、またこんな機会があれば参加したいと思っておりますとおっしゃっていただきました。でも、今回は富山県の主催でしたが、どうか、黒部の皆さんの手で、黒部のビジョンセッションをやっていただきたいと思っております。実は、すでに終わったところでも独自のビジョンセッションをやっておられるところもあります。とっても嬉しいことだと思って

います。どうかこれからは、黒部による黒部のためのビジョンセッション。今日はもちろん富山県としてのいろんなアイデア、学びもありましたし、愛嬌もいただきました。本当にありがとうございました。

参加者：今日はどうもありがとうございました。私自身こういった催しに参加するのは初めてで、いろいろと知事はじめ、市長にいろいろと物申したいこともあったのですが、私もこれをツイッターで知ったのですが、今日ここに来るといって、そういう催しがあったのなら参加するよという人もたくさんいたんですよ。こういったこともアイテムを使うのが下手。行政は下手ですね。知事が最後に言われたのですが、民間でまた盛り上げていけたらいいなと思っています。そういったときにまた、意見を聞いていただける場を設けていただけたらいいじゃないかと思います。よろしく願いいたします。